

スポーツ・文化

目指す姿（10年後）

- 地域の多彩なスポーツ資源に対する県民の認知が高まり、それらを活用した地域づくりの取組が県内各地で盛んになることで、新たなにぎわいの創出や地域経済の活性化などの成果が現れ始めています。
- 多くの県民が野球やサッカーといった身近なスポーツに限らず、都市と自然の近接性という本県の強みを生かし、マリンスポーツやウィンタースポーツ、アーバンスポーツ、eスポーツといった多様なスポーツを楽しんでいます。
- スポーツを「する」だけでなく、県内のトップチームやアスリートの活躍を「みる」ことや、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を「ささえる」輪が広がることで、県民同士の一体感が高まり、広島が新たな「スポーツ王国」として広く認知され、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。
- パラスポーツについて県民の認知が高まり、障害の有無や、年齢、性別を問わず、誰もが参画し、楽しむことで、スポーツが多様性を認め合うきっかけとなっています。
- 多様な文化芸術について、県民の様々なニーズに応じた、「鑑賞する」「自ら体験する」ことができる機会が充実し、多くの県民が参画しています。
- 広島を代表する文化芸術として、神楽や交響楽団などが県内外から高く評価されることで、文化芸術に対する県民の関心が高まり、親しむ人が増え、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。
- 地域の歴史文化に触れることができる機会が充実し、また、こうした歴史文化の情報が一元的に集約され、容易にアクセスできるなど、地域の歴史文化を知ることができる環境が整い、県民の理解が進んでいます。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
スポーツを楽しめることを誇りに思う県民の割合	52.4% (全国1位) (R1)※1	67.9% (R4)※2	58.7%	65%
週に1日以上スポーツ実施率	県:41.8% (国:53.6%) (R1)	45.1% (R4)	53.4%	65%
過去1年間に文化芸術活動(鑑賞・体験等)に参加した県民の割合	鑑賞活動: 48.3% 体験活動: 19.5% (R2)	鑑賞活動: 33.7% 体験活動: 15.2% (R4)	鑑賞活動: 65% 体験活動: 35%	鑑賞活動: 80% 体験活動: 50%

※1 地域ブランド調査(株式会社ブランド総合研究所)R1で調査終了。

※2 県民意識調査 (県ブランド・コミュニケーション推進チーム)

主な取組

● スポーツを活用した地域活性化

- 「わがまち♥️スポーツ」に取り組む市町の支援
[R2~]

● 誰もがスポーツに親しむ環境の充実

- 広島横断型スポーツ応援プロジェクト

「Team WISH」の運用開始 [R4.3]

● スポーツ競技力の向上

- 「ひろしまスポーツアカデミー」

第1期生(中学生)の育成プログラムの実施

[R4.4~R5.3]

第2期生の選考会の実施 [R4.10]

● 文化芸術に親しむ環境の充実

- 県立美術館における**多様な特別展**の開催
- 県立美術館と広島市現代美術館による**初の合同展**の開催[R4.10~R5.1]
- **広島県公立文化施設ネットワーク**の構築
[R4~]
- 県内の公共ホールを拠点とした**地域住民参画型モデル事業**の実施[R4~5]
- 縮景園での**和文化体験イベント**等の実施
- **けんみん文化祭**及び**県美展**の開催
- 歴史民俗資料館、歴史博物館及び頼山陽史跡資料館における**企画展等の開催**

① スポーツを活用した地域活性化

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 本県が有する多彩なスポーツ資源を活用し、県内各地における多様な活性化の姿を生み出せるよう、広島版スポーツコミッションである「スポーツアクションひろしま(SAH)」が中心となって、スポーツを活用した地域活性化に向けた戦略立案や事業実施、効果検証など、市町等における取組を支援します。
- 「スポーツアクションひろしま(SAH)」において、県内におけるスポーツを活用した地域活性化に向け、知見やノウハウ、人脈を蓄積・提供するとともに、各種スポーツ団体やスポーツ関係者同士のネットワークを構築し、連携を促すことで、新たな取組が生まれやすい環境を創出します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
「わがまち [◆] スポーツ」※ により目指すべき姿に向け 取組を実施している市 町数	目標	6 市町	8 市町	10 市町	12 市町	14 市町
	実績	6 市町	8 市町			

※スポーツの力を活用し、目指す姿の実現に向けた地域活性化の取組

【評価と課題】

- スポーツを活用した地域活性化の取組については、市町に対し人脈の形成やノウハウの提供、財政的な支援などの伴走型のサポートを行い、令和4年までに8市町が取組を実施し、スポーツ大会の誘致や地域住民参加のイベントなどが各地で開始されている。
- 一方で、市町において、スポーツを活用した地域活性化を図るための知識やノウハウが十分に蓄積されているとは言えない状況であることから、引き続き、SAHにおいて市町に対する人的支援等を進めていく必要がある。

【主な事業】・ スポーツを活用した地域活性化推進事業……………403 ページ

【令和5年度の取組】

- 全国での先進事例や県内での取組事例の紹介・共有を通じて、「わがまち[◆]スポーツ」のさらなる県内展開に取り組む。

② 誰もがスポーツに親しむ環境の充実

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 県内スポーツの各種活動やスポーツ施設の予約、利用等に関する情報の一元化とウェブやSNSによる戦略的な情報発信に取り組みます。
- 県内トップチームの選手派遣などによる、学校や地域でのスポーツ教室やスポーツ体験会を実施します。
- スポーツ解説者、OB・OG・現役選手などの配置による試合実況やルールや技術・戦略の解説、トップス広島をはじめとする県内トップスポーツの観戦への誘客、満足度の向上など、県民が応援を楽しむための環境を充実させます。
- 国際規模・全国規模のパラスポーツ大会を誘致するとともに、指導者の育成や体験会の開催を通じて、パラスポーツの普及を促進します。
- ウェアラブル端末などを活用したトレーニング方法やリモート応援システムなどを活用した観戦など、スポーツとの新しい関わり方の環境整備を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
スポーツを直接観戦した県民の割合	目標	44%	45%	46%	47%	50%
	実績	23.1%	28.4%			
スポーツボランティアに参加した県民の割合	目標	12%	14%	16%	18%	20%
	実績	7.8%	5.8%			

【評価と課題】

- 令和4年度は、新型コロナ感染拡大に伴うイベントの開催制限が段階的に緩和されたが、収容人数に関する制限は継続したため、直接観戦した県民の割合は目標を大きく下回った。
- コロナ禍で直接的な観戦増の取組が難しい中、広島県内のスポーツチームと連携した広島横断型スポーツ応援プロジェクト「TeamWISH」を開始し、ウェブコンテンツ上でのサービスの提供や県民が選手と触れ合える場の創出などに取り組んでいるが、一部のチーム以外は広く県民に認知されていない状況が引き続き見られる。
- また、県障害者陸上競技大会、全国障害者スポーツ大会予選会や各種パラスポーツ体験会等が行われたものの、新型コロナ感染防止のため規模を縮小して開催するなどによって、ボランティアに参加する県民の割合も目標を大幅に下回った。

【主な事業】・ スポーツを活用した地域活性化推進事業……………403 ページ

【令和5年度の取組】

- 県内 25 チームの選手情報や試合等のデータを活用した県民参加型のコンテンツの提供や、県内トップスポーツチームと連携したイベントの開催等を通じて、県民の各チームへの認知度向上と競技やアスリートへの興味・関心を喚起していく。
- 公益社団法人広島県パラスポーツ協会と連携し、3つの施策、①「普及啓発・認知向上」、②「場の充実・機会の確保」、③「競技力向上」を有機的、連続的に結びつけ、コーディネーターを中心に、多様なキープレーヤー(※)が一体となって取り組み、パラスポーツを通じた活力ある共生社会の実現を目指す。

※市町、競技団体、企業、大学、ボランティア、指導者、理学療法士等

③ スポーツ競技力の向上

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 体験型スポーツプログラム等を通じた裾野の拡大を図りつつ、優れた運動能力を持つジュニア選手の早期発掘に取り組むとともに、指導力の高い優秀な指導者の養成・確保を行うなど、ジュニア選手の育成強化に取り組めます。
- スポーツ医科学的なサポートやトップアスリートの指導に加え、オンラインコーチングアプリやモーションキャプチャーなど、デジタル技術の活用による育成を図ります。
- 強化を通じて得られたデータをエビデンスとして活用し、個人に応じたトレーニング方法の導入を推進します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
国民体育大会総合成績 (天皇杯)	目標	14位	12位	11位	10位	8位
	実績	—※	26位			
国民体育大会成績(少年の部)	目標	23位	20位	17位	15位	14位
	実績	—※	46位			

※ 新型コロナの感染拡大を受けて大会中止

【評価と課題】

- 国民体育大会が3年ぶりの開催となったが、総合成績は26位、少年の部は46位と成績が低迷している。
- 成年の部の成績は前大会と同順位である16位だったが、少年の部が46位だったため、総合成績は26位となっている。少年の部の競技成績が低迷している要因として、指導者をはじめとする競技環境が整わないことによる優秀な選手の県外流出が考えられる。このため、小学校段階での競技体験機会の充実、中学段階での発掘・育成、高校段階での競技力強化まで、一貫した取組が必要である。
- 令和7年度の国民体育大会(少年の部)でのKPIを達成するため、得点が期待できる競技に特化して強化を図る「ひろしまスポーツアカデミー」を立ち上げ、第1期生(中学生)の育成を図るとともに、第2期生の選考会を実施した。今後、選考したアカデミー生の育成・強化を図る必要がある。

【令和5年度の取組】

- 国民体育大会に向けて、成年・少年の強化選手を対象に強化合宿等の強化事業を実施する。
- 「ひろしまスポーツアカデミー」の育成強化事業を実施するとともに、対象競技を拡大し、第3期生の選考会を行う。
- 小学校～高校段階まで一貫した育成システムを確立するため、小学生を対象にした「スーパージュニア育成プログラム」、中学生を対象にした「ひろしまスポーツアカデミー」及び高校生を対象にした「競技力向上拠点校事業」について、相互の連携を図る。

④ 文化芸術に親しむ環境の充実

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 県立美術館において、幅広い層が楽しめる展覧会などを開催するとともに、縮景園においては、隣接の美術館との一体的運営の下、その魅力を更に引き出すイベント等を実施します。
- けんみん文化祭・県美展の内容の充実等を図るとともに、県内の文化施設の有効活用を進めるなど、県民が文化芸術活動に参加しやすくなる環境づくりを進めます。
- 文化団体等がその活動について相談でき、また、共通の課題解決に向けた関係団体での連携を推進できるプラットフォームを整備し、文化団体による活動の活性化を図ります。
- 広島神楽や広島交響楽団など広島の誇るべき文化資源が県民に対してより一層浸透するよう、それらの魅力を身近に感じられる公演機会の提供や、デジタル技術を活用した国内外に向けた情報発信などを支援します。
- 江戸時代以降の広島の歴史文化について、ゆかりの深い県立美術館等で分かりやすく発信していきます。また、県立歴史博物館等においても、幅広い地域の歴史に触れていただく企画展や出前授業等を充実します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
文化芸術について関心がある県民の割合	目標	78.6%	80.2%	81.8%	83.4%	85.0%
	実績	72.3%	72.0%			
地域の歴史について知っていると回答した県民の割合	目標	16.7%	20.1%	23.5%	26.9%	30.0%
	実績	12.0%	12.2%			

【評価と課題】

- 文化芸術について関心がある県民の割合については、県立美術館と広島市現代美術館による初の合同展開催やナイトミュージアムの実施のほか、幅広い層が楽しめる様々な企画や県内の文化施設の有効活用等により、県民が文化芸術に親しむ機会の確保に努めたが、文化芸術への潜在ニーズを喚起する魅力発信が十分に行えておらず、目標達成に至っていない。
- 地域の歴史について知っていると回答した県民の割合については、県立歴史博物館等において展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入するなどの新たな取組を始めたほか、福山城築城400年記念事業に福山市等と連携して取り組み、歴史文化ポータルサイトでの情報発信の強化やコンテンツの充実を努めるなど、地域の歴史文化を知ることができる環境の整備が進んでいる一方で、歴史文化に関心が低い層など、広く県民への働きかけが十分に行えておらず、目標達成に至っていない。
- 市町や公立文化施設間のネットワーク体制を新たに構築し、文化資源の共有等を通じて、各市町等が抱える文化芸術事業の企画・運営に係る課題の解決支援に着手するなど、地域における文化拠点の機能強化に向け、着実に取組を推進している。
- 今後、新型コロナの5類移行に伴う行動制限の緩和や、G7広島サミットを契機とした、美術館・縮景園の魅力発信など、県民が文化芸術に親しむ機会や地域の歴史文化に触れる機会をより一層充実していく必要がある。

【主な事業】・地域文化拠点強化事業……………405 ページ

【令和5年度の取組】

- G7広島サミットでの美術館・縮景園の利用に伴い、国内外からの注目が高まっていることも踏まえ、縮景園での和 문화体験や県立美術館での魅力ある展示など、本県が有する文化芸術の豊富なリソースを生かした企画を効果的に進め、更なる誘客促進を図っていく。
- 公立文化施設ネットワーク内の情報共有システムの活用や外部有識者の助力等を通じてネットワークの取組を発展させ、構成員間の更なる連携を推進していくとともに、公立文化施設が地域住民と協働で文化芸術活動に取り組むモデル事業の実施結果を検証の上、地域の独自性ある事業の実施事例として各市町等への展開を図っていく。
- 県立歴史博物館等で展示ガイドアプリの解説対象となる資料の拡充等デジタルコンテンツの更なる充実を図っていくとともに、安芸高田市等と連携した毛利元就郡山城入城 500 年記念事業に取り組むなど、県民が幅広い地域の歴史文化に触れる機会の充実を図っていく。